

The background of the slide features a blue banner on the left with the Tohoku University logo, which consists of a circular emblem with a laurel wreath and the text 'TOHOKU UNIVERSITY' below it. The rest of the background is a blurred image of a hallway with mailboxes on the wall and recessed ceiling lights.

「若手リーダー海外派遣プログラム」の取組と 日本人研究者の派遣促進に向けた課題

2026年5月11日 科学技術・学術審議会
国際戦略委員会

東北大学 理事・副学長（研究担当）

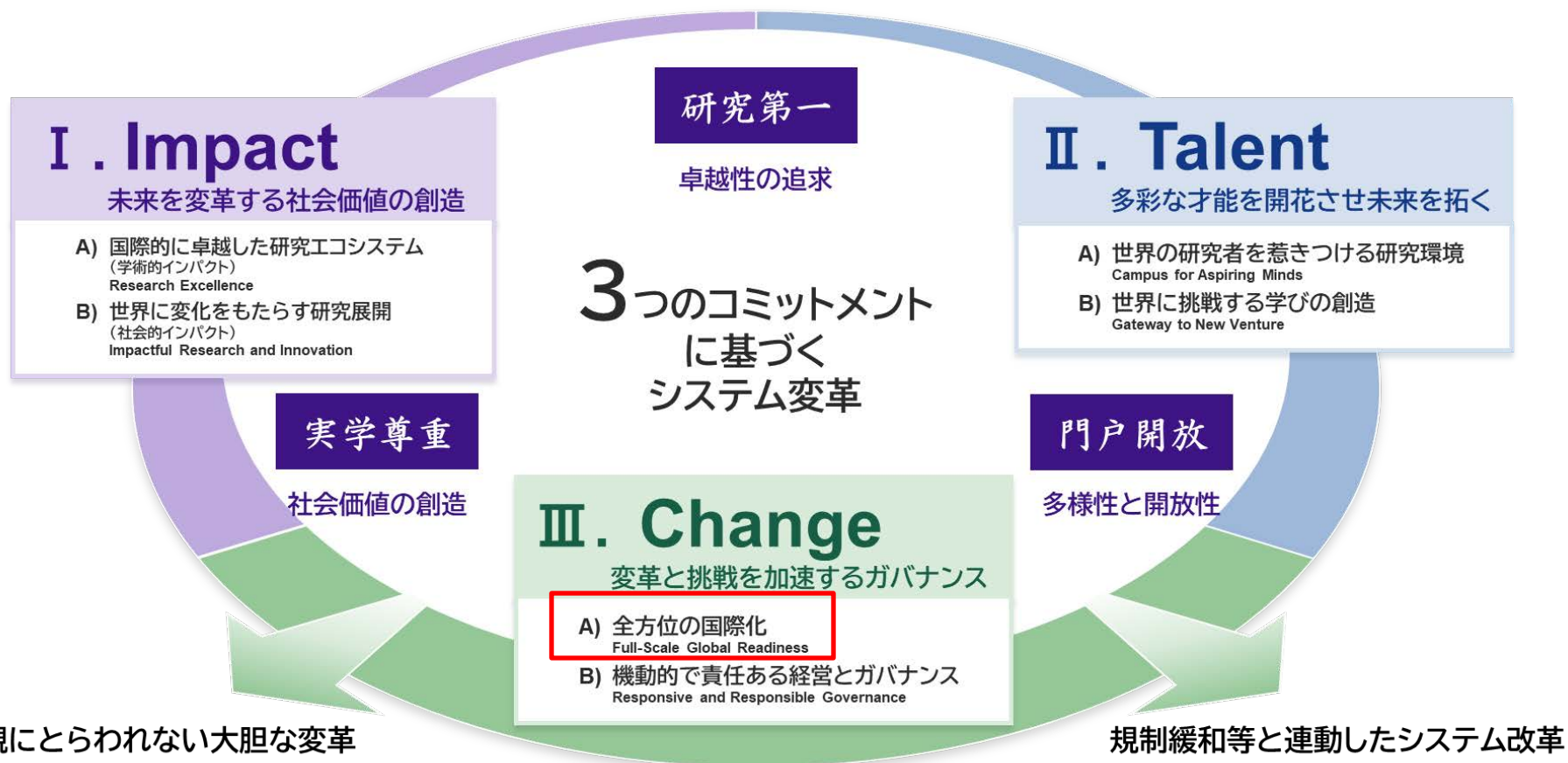
杉本 亜砂子



- 国際卓越研究大学における体制強化計画の全体像 3
- 国際頭脳循環を加速させる学内 Grant パッケージ 4
- 「若手リーダー海外派遣プログラム」について
 - 「若手リーダー海外派遣プログラム」の歩み 5
 - 「若手リーダー海外派遣プログラム」の趣旨 6
 - 「若手リーダー海外派遣プログラム」の概要 7
- 派遣実績・派遣の成果について
 - これまでの派遣実績（令和5年度以降） 8
 - 「国際卓越戦略型」における派遣状況 9
 - 派遣の成果 10
- 海外派遣における課題への対応と今後の展望
 - 「若手リーダー海外派遣プログラム」が抱える課題 11
 - 海外派遣における3つの障壁と本学の対応 12
 - 日本人研究者の海外派遣の促進に向けて 13

国際卓越研究大学における体制強化計画の全体像

- 本学は国際卓越研究大学の体制強化計画において、3つのコミットメントである「Impact」「Talent」「Change」とも、世界の研究者を惹きつける研究環境や全方位の国際化などの6つの目標を達成するための19の戦略を提示している。
- 目標「Ⅲ-A」では、全方位の国際化をCGO（包括的国際化担当役員）を中心に徹底推進することとしており、**テニユア教員の海外経験比率を100%**とすることを目標に掲げている。



新たな知識経営体として機能拡張し、社会・世界への波及を拡大

国際頭脳循環を加速させる学内grantパッケージ

- 研鑽を積む若手の挑戦から、世界を牽引するトップ研究者の共創まで、派遣・招聘の両側面から全方位的に支援。「外への派遣」と「内からの招聘」がもたらす相乗効果により、本学が知のハブとなる国際頭脳循環を加速させる。

Horizon Europe

国際共同研究強化

次世代のためのASPIRE

TOPのためのASPIRE
国際先導研究

※いずれも派遣対象は若手研究者

派遣型

若手リーダー海外派遣
プログラム

<https://c.bureau.tohoku.ac.jp/kensui-top/6kyoka/>

トップレベル研究者

中堅研究者

若手研究者

ポスドク等

知のフォーラム
ジュニアリサーチプログラム

※若手研究者による海外トップ研究者の
中長期招聘

知のフォーラム
テーマプログラム

※ノーベル賞級のゲスト研究者の中長期招聘

https://www.tfc.tohoku.ac.jp/jp/forum/propose_a_program/

アフリカ戦略的若手インターンシッププログラム

<https://c.bureau.tohoku.ac.jp/kensui-top/page-56515/>

https://www.tfc.tohoku.ac.jp/programs/propose_a_program/to_propose_a_program.html

招聘型

JSTインド若手科学頭脳循環プログラム、JSPS外国人研究者招へい事業 …



「若手リーダー海外派遣プログラム」の歩み

- **平成25（2013）年 文部科学省「研究大学強化促進事業」採択**

（研究力強化実現構想より）
若手研究者が未踏萌芽的分野で大きな挑戦をする、あるいは海外に積極的に打って出て研究をする意欲を高める機会が少なくなりつつある

⇒ **「若手研究者海外派遣プログラム」の創設**

毎年度10名程度（事業期間全体で110名）の若手研究者を海外へ派遣



- **令和5（2023）年 自主財源（総長裁量経費）によりプログラム継続**



- **令和6（2024）年 国際卓越研究大学 認定**

国際卓越研究大学体制強化計画に明確に位置づけ、支援規模を拡大して実施中

「若手リーダー海外派遣プログラム」の趣旨

「若手リーダー海外派遣プログラム」は、若手研究者に対して、海外の優れた研究機関や世界トップレベル研究者のもとで、自由な発想に基づいた研究活動を行う機会を与えるもの



本プログラムの取組みを通じて

研究者側

トップクラスの国際研究コミュニティに参加するきっかけとなり、そこで得た研究成果と**人的ネットワーク**を糧に、その後の研究活動へ最大限に活用

大学側

本学の若手研究者が世界の学术界のリーダーへと成長し、国際ネットワークを強化していくことにより、**国際的に卓越した研究大学としての地位向上**につながることを期待

「研究者個人の成長」×「大学全体の研究力向上」の相乗効果



「若手リーダー海外派遣プログラム」の概要

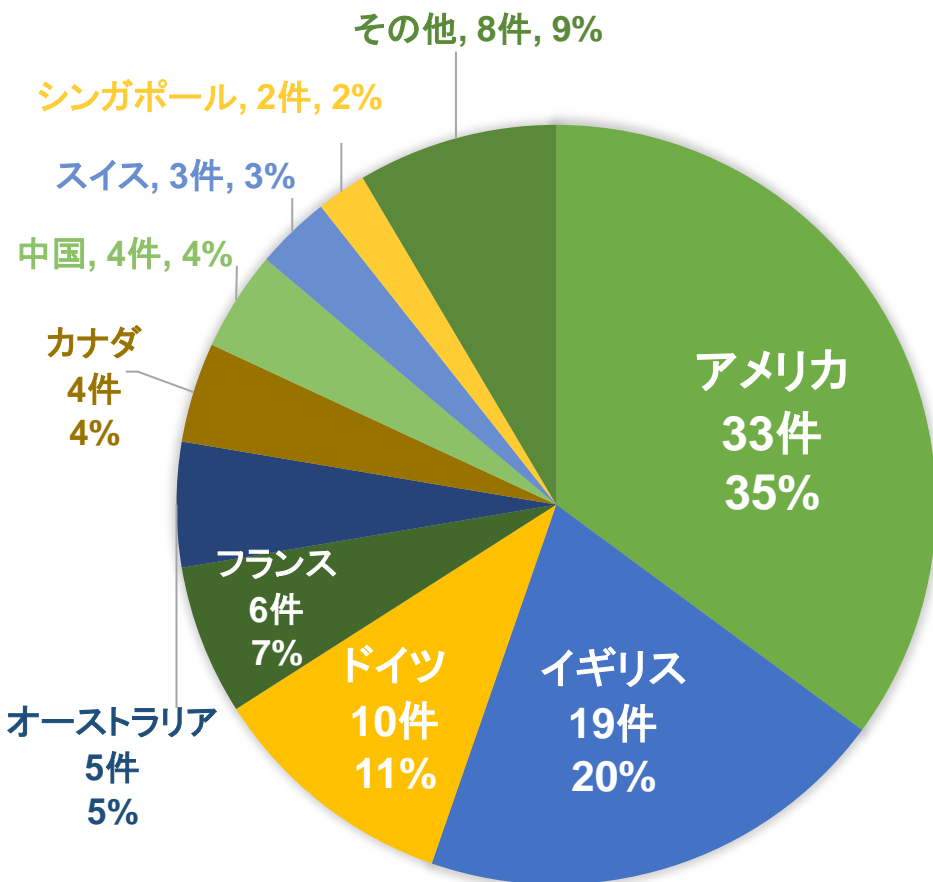
※2026年度募集内容

	若手研究者申請型	国際卓越戦略派遣型 (2025年度新設)
目的	若手研究者の自由な発想に基づく海外研鑽の機会を提供し、次代のリーダー研究者を育成	各部局等の研究戦略に基づき、戦略的に若手研究者を派遣 することで研究力強化を推進
申請主体	研究者個人（若手研究者） ※45歳以下の者（ライフイベントの考慮あり）	部局長、コアリサーチクラスター長、国際研究クラスター長、学際研究重点拠点長 ※渡航者は若手研究者を想定
派遣機関	若手研究者の希望する 世界トップレベル研究機関	戦略的パートナー研究機関 (クロスアポイントメントで雇用する国際卓越PIの海外所属機関等)
派遣期間	<ul style="list-style-type: none"> 長期渡航（6ヶ月～原則最長12ヶ月） 短期渡航（3～5ヶ月） 	各部局等の戦略に基づき 自由に設定 (原則最長12ヶ月)
支援経費	<p>1名当たり 最大約1,300万円（渡航期間1年間の場合）</p> <p>① 渡航者への支援：最大約770万円 [内訳] 日当宿泊費 上限60万円/月×12ヶ月, 交通費 約40万円, その他雑費等 約10万円</p> <p>② 渡航者が所属する部局への支援：最大500万円 [使途] 代替する既存教員への特別手当（月1～5万円）, 代替する新規職員雇用経費 等</p>	
備考	渡航期間中は「長期出張」の扱い。テニユアトラック教員の場合、渡航期間分の任期延長も可。	

これまでの派遣実績（令和5年度以降）

- 令和5（2023）年度より毎年20名程度を派遣しており、令和8（2026）年度募集分までの採択者累計は94名。
- 渡航する国、渡航先機関も多岐にわたる。

〔国別内訳〕



〔主な渡航先機関〕

機関名	渡航者数
ケンブリッジ大学	6
マサチューセッツ工科大学	5
マックス・プランク研究所	5
オックスフォード大学	3
メルボルン大学	3
ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン	3
アメリカ国立衛生研究所	3

〔渡航期間〕

渡航期間	渡航者数
6か月未満	13
6か月～1年未満	23
1年以上	58
計	94

※ 出発前の採択者の渡航期間は予定

「国際卓越戦略型」における派遣状況

- 令和7（2025）年度に新設した「国際卓越戦略型」は、申請主体（部局長、コアリサーチクラスター長等）が派遣先機関及び派遣する若手研究者を選定するトップダウン型の支援制度であり、これまでに5件採択している。
- いずれも若手研究者の派遣を起点として、世界トップ層との組織的連携を強化し、部局全体の研究力を中長期的に世界水準へ引き上げることを狙いとしている。

	派遣先機関	申請主体（部局）の狙い	派遣対象者	派遣期間
1	ノッティンガムトレント大学	部局間学術交流協定の締結及び重点分野におけるトップ研究者コミュニティへの参画	教育学研究科・講師	6か月 (渡航中)
2	シドニー大学	国際共同研究拠点(Joint Research Hub)の設立を見据えた関係強化	歯学研究科・助教	1年 (渡航中)
3	ペンシルベニア州立大学	博士課程学生やポスドクの双方向交流及び共同研究ラボの設立を見据えた関係強化	多元物質科学研究所・博士課程1年	1年 (渡航中)
4	Max Planck Institute for Polymer Research	国際先導研究と連動した人材育成・国際連携戦略の推進	医学系研究科・助教	1年 (渡航前)
5	オックスフォード大学	コアリサーチクラスターの中長期的戦略ビジョンの実現	材料科学コアリサーチクラスター・准教授	1年 (渡航前)

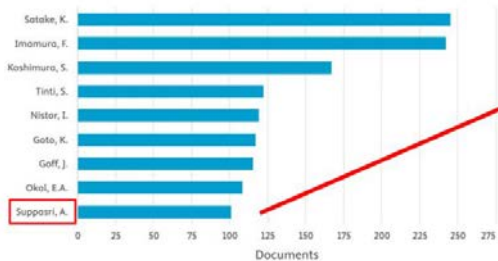
派遣の成果

国際的なビジビリティの向上

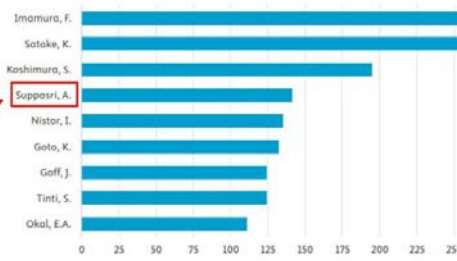
- 渡航先でのネットワークを通じて、共著論文の執筆や国際学会での招待講演などの依頼が増加
- 自身の研究分野の論文数が上昇

SCOPUSでの“tsunami”の論文数

2022年まで（渡航前までの期間）

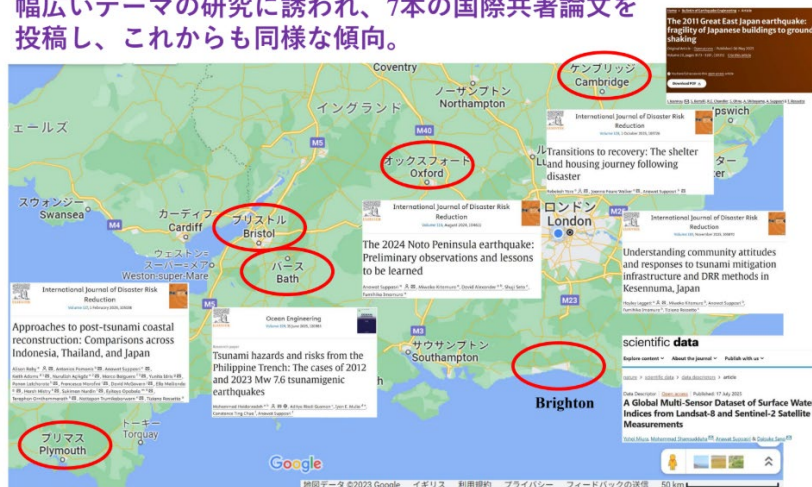


2026年まで（現在までの期間）





帰国してから2年の成果：共著論文（英国）

幅広いテーマの研究に誘われ、7本の国際共著論文を投稿し、これからも同様な傾向。



(※2023年度採択者の体験談資料より抜粋)

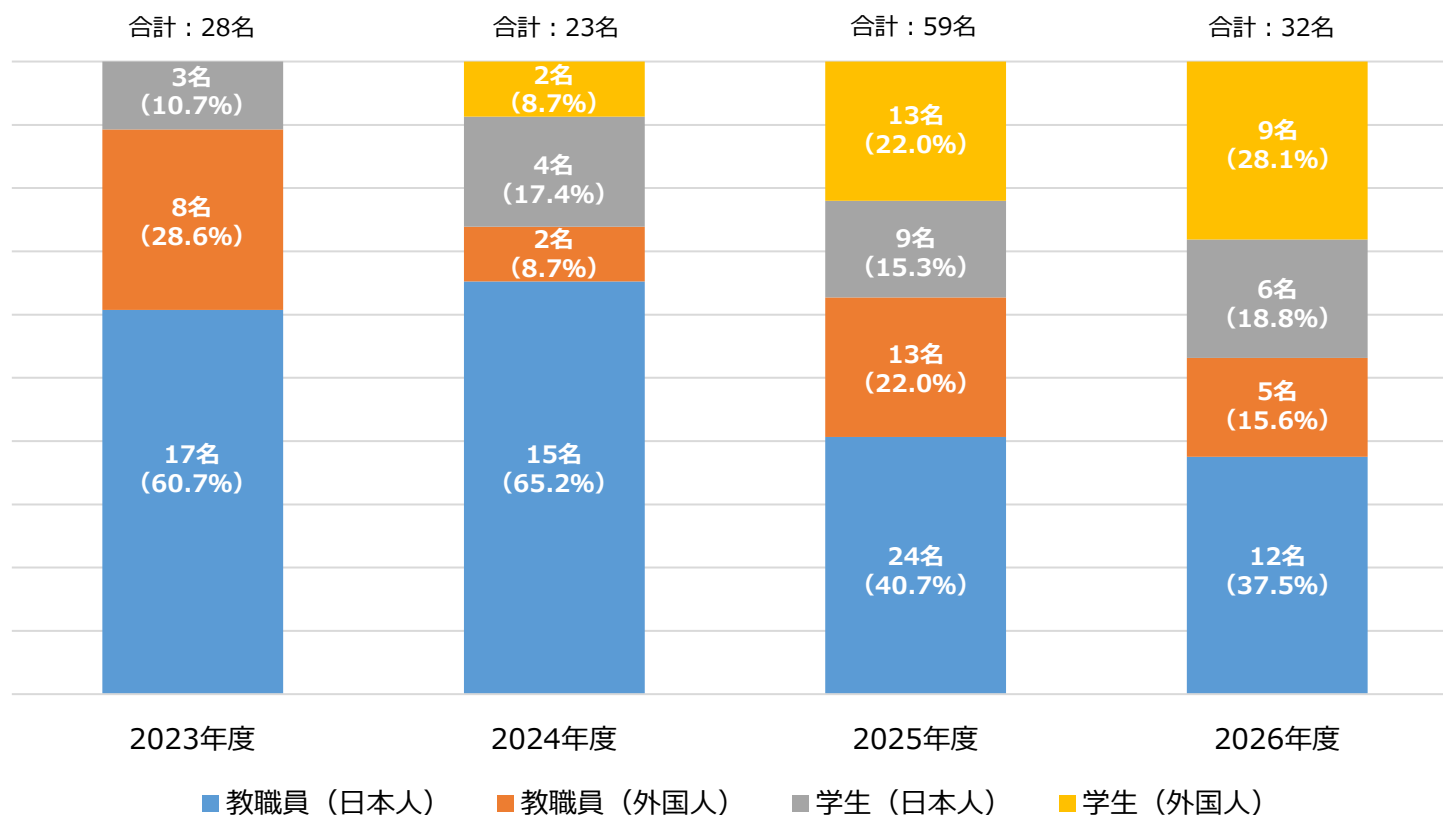
国際共同研究型研究費の獲得

	研究代表者	研究課題	本プログラム採択年度
	工学研究科 好田 誠 教授	次世代のためのASPIRE（2023） 「半導体およびトポロジカル物質のスピン軌道ナノ構造を用いた量子状態制御」	2021年度 2023年度
	環境科学研究科 轟 直人 教授	次世代のためのASPIRE（2025） 「持続的な国際研究エコシステムによる水素エネルギー用次世代触媒の開発」	2024年度

「若手リーダー海外派遣プログラム」が抱える課題

- 「若手リーダー海外派遣プログラム」の対象者は「本学に所属する若手研究者（大学院後期博士課程学生を含む）」としており、国籍や渡航経験による応募制限を設けていない。
- プログラムの認知向上に伴い、既に十分な海外経験を有する層（外国人留学生等）からの応募が増加しており、「海外経験の少ない若手研究者が日本を飛び出し、国際的な研究コミュニティに参加する重要な契機とする」という本来の目的を踏まえた、選考基準の再構築が必要な時期にきている。

「若手リーダー海外派遣プログラム」申請者の属性の推移



※「国際卓越戦略型」は除く

海外派遣における3つの障壁と本学の対応

〔障壁〕

1. コストの障壁

円安・物価高騰により従来の支援額では渡航費・滞在費の自己負担が発生

2. ライフイベントとの両立の障壁

30代～40代の若手・中堅層にとって「単身赴任」、「家族帯同」のいずれの選択も負担が過大

3. キャリア・組織の障壁

自身が不在中の授業、学生指導、研究室業務などに対する不安、周囲への気兼ね

〔本学の対応〕

- 交通費は実費支給
- 滞在費の上限額を30万円から**60万円**に引き上げ

- 「出張に帯同した子に要した交通費」を実費支給
- 長期渡航が難しい層も挑戦できる「短期渡航型」を設定

- 「渡航者が所属する部局への支援」を新設
- 新規雇用のみならず、既存教員に対する**特別手当の支給も可**

個人の意欲のみに頼らず、組織として挑戦を支える制度に随時見直し



● 「個人の挑戦」と「組織の戦略」の両輪による日本人研究者の後押し

➤ 渡航先の対象拡大

これまでの「本学が定める海外ベンチマーク大学」という渡航先の制限を撤廃し、自身の研究に**真に必要な渡航先を主体的に選択**

加えて、より部局の戦略が反映される「国際卓越戦略派遣型」を新設

➤ 壮行会の実施

担当理事が直接激励し、若手研究者の渡航が**研究者個人と大学双方にとって高いメリット**を持つことを強調

● 「若手リーダー海外派遣プログラム」コミュニティの形成

➤ 派遣者・帰国者交流会の開催

帰国者によるリアルな**知見（渡航準備、現地生活の立ち上げ等）を共有**し合い、はじめての渡航への心理的・物理的不安を払拭

制度の不断の見直しと、主体的な挑戦を促す「文化」の定着による重層的な支援

ご清聴ありがとうございました

東北大学公式ウェブサイト
<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/>

